

津波災害

津波から身を守るには「逃げる」しかありません！

自らが率先して避難します

上越市の津波浸水

新潟県は、平成29年11月に津波防災地域づくりに関する法律に基づき、国が公表した新たな知見による津波断層モデルを踏まえた津波浸水想定を公表しました。

この浸水想定は「上越市津波ハザードマップ」で確認できます。

〈市ホームページ〉

<https://www.city.joetsu.niigata.jp/soshiki/kikikanri/tsunami-hazard.html>



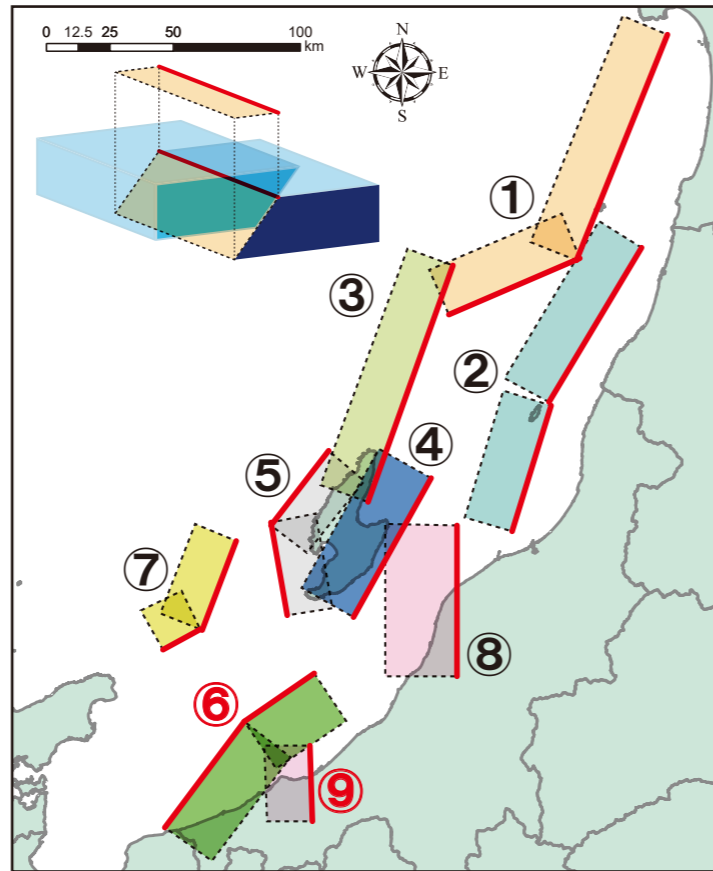
津波断層モデル

新潟県では、国が公表した断層モデルのうち、新潟県に大きな影響を及ぼす7つの断層(①~⑦)と県が独自に公表した2つの断層(⑧、⑨)を合わせ、9つの断層モデルを採用して、津波浸水想定を公表しました。

当市には、⑥F41(上越・糸魚川沖)断層と⑨高田平野西縁断層帯による津波が想定されており、⑥F41(上越・糸魚川沖)断層による津波が最も大きな影響を及ぼすとされています。

No.	公表	断層モデル
①	国	F30(秋田・山形沖)
②	国	F34(県北・山形沖)
③	国	F35(佐渡北)
④	国	F38(越佐海峡)
⑤	国	F39(佐渡西)
⑥	国	F41(上越・糸魚川沖)
⑦	国	F42(佐渡西方・能登半島北東沖)
⑧	県	長岡平野西縁断層帯(弥彦一角田断層)
⑨	県	高田平野西縁断層帯

〈新潟県に影響の大きい断層〉



日本海側の津波の特徴

～「津波対策の方向性の検討に係る調査研究」より～

《津波高・津波到達時間》

⑥F41(上越・糸魚川沖)断層に近い上越市の西部(名立区方面)では、津波高が高く、津波到達時間は**5分～10分程度**と想定され、F41断層からやや遠い東部(柿崎区方面)では、津波高は低くなり、津波到達時間は**10分～15分程度**とされています。

《津波の発生原因となる地震の発生間隔》

これまでに国、県が行った津波堆積物調査によると、⑥F41(上越・糸魚川沖)断層をはじめ上越地域から富山湾沿岸における断層の活動頻度は、数千年に一度程度とされています。

そこで市では、市内2箇所です約1万年前までの地層をボーリングにより採取し津波堆積物調査を行いました。津波による堆積物などの痕跡を確認できませんでした。

このことから、これまで**当市が津波の影響を受けた可能性は非常に低いもの**と推定できます。

津波からの避難「逃げる」が一番！

津波は、あっという間に襲ってきます。海岸近くや川沿いにいるときに揺れを感じた場合には、すぐに海岸や川から離れてください。

なるべく徒歩で避難！



自動車での避難は道路の渋滞に巻き込まれるおそれがあるため、可能な限り徒歩で避難しましょう。

川沿いは避けて避難！



津波には川の河口から上流に向かって逆流する力があります。河口から離れた地域でも川沿いを避けるようにしましょう。

間に合わない場合は頑丈な建物へ避難！



避難が間に合わない判断した場合は、頑丈な建物のできるだけ高い階まで逃げましょう。

津波警報などについて

気象庁は、上越市を含む予報区に津波による災害の発生が予想される場合、地震が発生してから約3分で**大津波警報・津波警報・津波注意報**を発表します。

緊急情報は、Jアラート※により防災行政無線や防災ラジオ、戸別受信機のほか、携帯電話の緊急速報メール(エリアメール)などで伝えられます。

この緊急情報をもって、市からの避難指示の発令となります。

※Jアラートとは、弾道ミサイル攻撃に関する情報や緊急地震速報、津波警報、気象特別警報などの緊急情報を、瞬時に皆さんに情報伝達するシステムです。

種類	予想される津波の高さ		想定される被害	命を守る行動
	数値での発表	巨大地震の場合の表現		
大津波警報(特別警報)	10m超	巨大	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。	沿岸部や川沿いにいる人は、すぐに海岸や川沿いから離れ、高台や避難ビルなど安全な場所へ避難しましょう。
	10m(5m超、10m以下)			
	5m(3m超、5m以下)			
津波警報	3m(1m超、3m以下)	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。	海の中にいる人と海岸にいる人は、すぐに海岸から離れ、高く安全な場所を目指しましょう。
津波注意報	1m(0.2m以上、1m以下)	(表記しない)	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、小型船舶が転覆します。	

気象庁「津波警報・注意報の種類」を参考に作成

- 津波の高さを「巨大」と予測する大津波警報が発表された場合は、東日本大震災のような巨大な津波が襲うおそれがあります。すぐにできる限り高く安全な場所へ避難しましょう。
- 震源が陸地に近いと津波警報等が津波の襲来に間に合わないことがあります。「揺れたら避難」を徹底しましょう。
- 津波は長い時間繰り返し襲ってきます。**津波警報等や避難指示が解除され安全が確認されるまで、避難を続けましょう。**